

第6学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう 「平和のとりでを築く」
「自分の考えを発信しよう」

2 指導観

- 本学級の児童の実態
本学級の児童は、これまでに「生き物はつながりの中に」の学習を通して、問題提起、問題の解明、まとめ・筆者の考えといった文章構成をとらえること、まとめの段落や文末表現に着目して筆者の考え方を読み取ることなどを学習してきた。また、「生き物はつながりの中に」「森へ」「やまなし」の学習を通して、二つのものを比較して、読みを深めていく学習をしてきた。さらに、筆者の考えに対する自分の考えをまとめたり、筆者の考えをもとに自分の見方・考え方を深めたりも経験してきた。
- しかし、文章を比較し、読み取ったことを自分の考えにつなげて、考えをまとめることは不十分である。
- 本教材の価値
本単元は、中心教材「平和のとりでを築く」を読み取り、そこで読み取った筆者の考えをもとに平和についての自分の考えを発信していくものである。
- 「平和のとりでを築く」は、筆者が、広島原爆ドームがたどった歴史と世界遺産になるまでの道のりを通して平和の大切さを伝えている説明的な文章である。
- 本文の文章構成は、13の形式段落からなり、大きく4つの意味段落（Ⅰ原爆ドームに対する筆者の思い－Ⅱ原爆ドームがたどった歴史－Ⅲ世界遺産への道のり－Ⅳまとめ）に分けられる。題名「平和のとりでを築く」の「とりで」は戦争のために築かれる要塞であり、題名の中に、あえて戦争用語を使っていることから問題意識も生み出しやすくなっている。また、文末表現も過去と現在、意見と事実というように巧みに書き分けられており、筆者の書き方の工夫にも着目させることができる。さらに「原爆ドーム」の呼称を時代背景と筆者の思いから変化させていたり、人々の平和への思いの広がり、深まりを強調するために「一少女－広島市民－全国の人々－世界の人々」という構成を工夫したりしている。題名「平和のとりでを築く」は形式段落の13だけに出てきており、筆者の主張が13段落に詰まっていることもとらえやすい。13段落の「原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。」と言い切っている表現には、筆者の思いや願いが強く詰まっている。この教材を通して筆者の考えを受け止め、自分の平和についての考えと比べることは意義深い。自分の考えを伝えるためには、書き表し方にも論理性が求められる。効果的な筋道だった書き表し方も考えることができる価値ある教材である。
- 自分の考えと根拠をもたせる言語活動の手だて
- (1) 比較の必要感をもたせる単元全体や1単位時間の課題を設定する。
〔単元全体の課題〕
- ・「平和のとりでを築く」で筆者は何を伝えたいのだろう。筆者の考えと自分の平和についての考えを比べ、自分の考えを発信しよう。
- 〔1単位時間の課題〕
- ・「平和のとりでを築く」を通してつかんだ要旨をもとに「平成16年度 平和への誓い」を読み、平和についての考えを読み比べよう。
- (2) 1単位時間の中に「書く活動1, 2」と「説明する活動」を位置付け、比較を通じた問題解決的な活動を仕組む。
- (7) 「書く活動1」の手だて
- ① 共通点や相違点に気付きやすい学習プリントの形式の工夫
 - ② 共通点や相違点を明確にする文型の提示
- (4) 「説明する活動」の手だて
- ① 共通点や相違点を明確にする文型の提示
 - ② 共通点や相違点を明確にする板書の工夫
- (5) 「書く活動2」の手だて
- ① 比べた事柄、言葉、文章を使って書きまとめさせる工夫
 - ② 共通点や相違点を明確にする文型の提示

3 単元目標(価値○技能●比較◎)

- 筆者が伝えたいことを読み取り，平和についての自分の見方・考え方を広げたり，深めたりできる。
- 言葉の変化や文末表現，文章構成の工夫を読む読み方を身に付け，事実と考え・意見を区別して書く書き方を習得し，学んだことを活用して平和に対する自分の考えを書きまとめることができる。
- ◎ 筆者の伝えたいことと平和についての文章を比べることで，筆者の考えを再考したり，自分の考えを比べて考えたりすることができる。

4 単元計画 (全13時間 読む⑧書く⑤)

時次	主な学習活動	指導上の留意点
読み／ 13 の め あ て	<p>1 単元名、リード文を読み，学習の構えをもつ。</p> <p>めあて _____</p> <p>題名と冒頭をつないで，読みのめあてをつくらう。</p> <p>2 題名「平和のとりでを築く」から，考えたことや疑問に思ったことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和ととりでと反対の言葉が使われているのはなぜか。 ・平和のとりでを築くとは，どういうことなのか。 <p>3 題名とつないで冒頭を読む。</p> <p>4 題名と冒頭から筆者の意図をつかみ，読みの方向をつくる。</p> <p>単元のめあて _____</p> <p>① 原爆ドームは，世界遺産になるまでにどんな年月をたどってきたのだろうか。</p> <p>② 筆者は，「平和のとりでを築くで」何を伝えようとしているのだろうか。</p> <p>③ 筆者の考えをもとに，自分の考えを発信しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元名の「筆者の考えを受け止め」から，筆者の考えが出ているところに着目させるようにする。 ○ とりでの辞書的な意味を捉えさせ，戦争で用いられるとりでと平和がどうつながるのか，題名の意味を予想し，題名から読んでみたいことを考える。 ○ 冒頭の中で，難語句については，補説を加えながら読み進めるようにする。 ○ 筆者の考えを捉えるために文末表現を読む。 <ul style="list-style-type: none"> ・思わずにはいられなかった ○ 指示語をおさえ，何のことを述べているのか捉えられるようにする。 ○ 筆者は，原爆ドームに対してどんな考えをもっているのか読み取らせながら，読みのめあてを生み出させる。
予見 ・ 3 ・ 4 ／ 13	<p>1 前時を振り返り，本時のめあてを確かめる。</p> <p>めあて _____</p> <p>全文を読んで，読みのめあて①の答えを読み取ろう。</p> <p>2 全文を読み，文章構成をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形式段落13段落で構成されていること ・意味段落が4段落であること。 <p>3 難易語を辞書で調べる。</p> <p>4 原爆ドームが世界遺産の仲間入り果たすまでにどんな年月をたどってきたか，その過程を年表にまとめる。</p> <p>5 年表を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意味段落が4段落であることをおさえ，それぞれに何が書かれているかまとめる。 ○ 原爆ドームのたどってきた年月を捉えやすくするために，時を表す言葉や原爆ドームの呼び方の変化，原爆ドームに起こった出来事，人々の動きという観点でまとめさせる。

読みのめあて②

原爆ドームは、世界遺産の仲間入りを果たすまでに、どのような年月をたどってきたのか【年表】

形式段落 年(の)	原爆ドーム の呼び方	「原爆ドーム」に起こった出来事	人々の動き
③② 一九二五年 天正四年 物産陳列館 建物	物産陳列館として完成	多くの市民に親しまれていた。	
④ 一九四五年 八月 午前八時 十五分	広島市に原子爆弾が投下され、たちまち炎上し、全焼はした。れんがと鉄骨の一部は残った。	多くは、一瞬のうちに生命を奪われた。この建物は中にいた人々は全員なくなった。	
⑥ 戦後間もなく	原爆ドーム	原爆ドームを保存するか、取り壊してしまっかの議論が続く。	
⑦ 一九六〇年 (昭和三〇年春)	原爆ドーム 産業遺産 建物	補強工事が急がれ、補強工事が何度か繰り返され、今の形を保った。	急性白血病でなくなった一少女の日記がきっかけとなり、市民も役所も「原爆ドーム」永久保存に立ち上がった。
⑧ 一九九九年 (平成四年)	原爆ドーム	ユネスコの世界遺産条約に加盟した直後から、原爆ドームを世界遺産にしようという動きが高まり、市民中心の活動は一九九六年まで続いた。	ユネスコの世界遺産条約に加盟した直後から、原爆ドームを世界遺産にしようという動きが高まり、市民中心の活動は一九九六年まで続いた。
⑨ 一九九六年 (平成八年)	原爆ドーム	世界遺産に指定される。	

- 6 筆者の考えが書かれている段落を見つけ、文章構成の意図や最終段落の意味を考える。
- 7 まとめの段落に着目しながら、自分の予見を書きまとめる。

○ 形式段落⑩と⑬を比較して、どちらが筆者の考えが強く表れているか、文末表現などをもとに考えさせる。

学習計画

5 / 13

- 1 前時をまとめたことを振り返り、本時のめあてを確認する。
- めあて _____
 クラスの予見を話し合い、詳しく読み確かめていく計画を立てよう。
- 2 クラスの予見を話し合う。

〈予想される予見〉
 筆者は、戦争は、人の心の中で生まれるものだから、原爆ドームが、それを見る人の心の中に平和を強く守っていかなければならないと思わせるための世界の遺産なのだということを伝えようとしている。

- 2 予見を確かめるための手がかりについて話し合う。
- ① 「戦争は人の心の中で生まれる」ということはどういうことか。それを見る人とはどんな人か。
- ② 「それを見る人の心に平和のとりでを築く」とはどういうことか。
- ③ 「世界の遺産なのだ」には、原爆ドームに対する筆者のどんな考えが表れているのか。

○ 筆者の考えを読み取ることができる計画を立てるために、筆者の考えが強く表れている叙述を考えたり、原爆ドームの呼び方の変化に着目させたりする。

○ 読みのめあてと予見を確かめていくために、何をどのように読み確かめていくのか視点を考えることで、見通しがもてるようにする。

読み確認

6 / 7

- 1 話し合ったことをもとに自分の考えを書き込みをする。
- 2 学習計画表をもとに、めあてを確認

か め 13	<p>かめる。</p> <p>めあて 筆者は、「平和のとりでを築く」で何を伝えたかったのかを読み確かめよう。</p> <p>3 視点①について読み確かめる。 (1)「戦争は人の心の中で生まれる」ということはどういうことか、今までの科や平和学習とつないで考える。</p> <p>4 視点②について読み確かめる。 (1)「それを見る人」どんな人なのか自分の考えを書き、全体で する。 (2)「心に平和のとりでを築く」とは、どういうことなのか自分の考えをイ ー 図で表し、全体で する。</p> <p>5 視点③について読み確かめる。 (1)「世界の遺産なのだ」には、原爆ドームに対する筆者のどんな考えが表れているのか自分の考えを書き、全体で する。</p> <p>6 本時で深まった読みを書きまとめる。</p> <p>筆者は、戦争は、人の心の中の人間の、り、いめ、別などの心がみ なって起こるものである。過去・現在・来の人々、広島・日本・世界の人々が原爆ドームを見ることで、戦争のさを強く心にみ、自分の心の中に生まれるや主義、いめの心などをちしたり、からやってくるそのような心をはのけたりすることができる。原爆ドームは、世界に一つしかない世界の人々が共する、後生まで残す価値のある世界の遺産なのだということを伝えたかったと思う。</p>	<p>○ 今までの戦争についての学習を想起しやすいうに、やを提示する。</p> <p>○ それを見る人とは体的になのか、の段落とつないで読んでいかせる。</p> <p>○ 「一少女、広島市民、全国、世界の人」という間的な広がり、「後世」「来」などから「過去－現在－来」という時間的な広がりがあることをとらえさせる。</p> <p>○ 人間のどのような心が戦争をおこしていくのか、視点①で読み確かめたこととつないで書き表させる。</p> <p>○ 読みのめあてを生み出すときに生まれた疑問とつないで、「平和」と「とりで」というするものが題名についていることを振り返り、別の言葉と比べてその意味について考えさせる。</p> <p>○ 原爆ドームは、世界的、歴史的にも価値のあるものだという筆者の考えを読み取るために「世界の遺産」とた言葉と比較して読ませる。</p> <p>○ 原爆ドームの価値を確信する筆者の考えを文末表現「なのだ」に着目して読ませる。</p>
読 み の ま と め 13 (本 時)	<p>1 筆者が「平和のとりでを築く」で伝えたかったことを振り返る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p>めあて 「平和のとりでを築く」を通してつかんだ要旨をもとに「広島市 平成16年度 平和への誓い」を読み、平和についての考えを読み比べ、筆者の考えをさらに深めよう。</p> <p>3 「広島市 平成16年度 平和への誓い」の読をき、「平和への誓い」の中で「原爆ドーム」にあたるものを考える。</p> <p>4 「原爆ドーム」と「り」との共通点と相違点を考え、する。</p>	<p>○ 「平和のとりでを築く」の要旨を確かめられるように、要旨を示しておく。</p> <p>○ 「平和のとりでを築く」の原爆ドームが「平和への誓い」では、何にあたるのかという視点をえて、読をさせる。</p> <p>○ 学習プリントに「平和のとりでを築く」の要旨をせ、比較しながら自分の考えを書くことができるようにする。</p>

		<p>5 「平和のとりでを築く」で、筆者が一 伝えたかったことが、「平和への誓い」の6年生に受け がれたか考え、 する。</p> <p>6 して深まった考えを書きまとめる。</p>	<p>○ 「原爆ドーム」と「り」との共通点から、どんな役 をしているか捉えさせる。</p> <p>○ 筆者の考えの最後の一文と「平和への誓い」比べさせて、筆者の考えを深めさせる。</p> <p>○ 自分の考えの付加 正，深化に気 させるようにする。</p>
読み広げる	13 / 13	<p>「めあて」 筆者と自分の平和に対する考えを比べ、自分の考えを発信しよう。</p> <p>1 「平和のとりでを築く」の文章構成や表現の工夫を振り返る。</p> <p>2 自分の文章構成や の 性を味する。</p> <p>3 自分の平和に対する考えを書きまとめる。</p> <p>4 筆者と自分の平和に対する考えを比べ、自分の考えを発信する。</p>	<p>○ 「現在－過去－現在」という文章構成や事実と意見を書き分けている文末表現を確認する。</p> <p>○ 課題設定、 体 ，まとめという意見文の構成を確認する。</p> <p>○ 自分の考えを伝えるための 体 の や 用は 切か させる。</p> <p>○ 筆者と自分の考えの共通点に着目させていく。</p>

5 本時 平成22年11月 日() 時間目

6 本時の目標 (/ 13)

- 筆者の伝えたいことを再考し、平和に する自分の考えを発信していく意 をもつことができる。
- 説明文の要旨をもとに、 との共通点と相違点を考える読み方を身につけることができる。
- ◎ 「平和のとりでを築く」と「広島市 平成16年度 平和への誓い」の を比べて、共通点と相違点からから平和への考えを読み比べることができる。

7 本時指導の考え方

本学級の児童は、これまでに単元のめあて②について、13段落を中心として、「戦争は人の心の中で生まれる」ということはどういうことか。「それを見る人に平和のとりでを築く」とはどういうことか。「世界の遺産なのだ」には、原爆ドームに対する筆者のどんな考えが表れているのかという視点から、「平和のとりでを築く」で筆者が伝えたいことについて考え、原爆ドームにこめた筆者の平和に対する思いを読み確かめてきている。

本時では、「平和のとりでを築く」で読み取った要旨をもとに、「平成16年度 平和への誓い」とを比べることで、平和に対する考え方の共通点と相違点を見つけ、筆者の平和に対する考えを再考する時間である。

本時の導入にあたっては、まず、「平和のとりでを築く」の要旨を振り返る。そして、「平成16年度 平和への誓い」を読み、平和に対する考えを読み比べ、筆者の伝えたいことを再考する時間であるということを確認する。

本時の にあたっては、「平成16年度 平和への誓い」の中で「平和のとりでを築く」の「原爆ドーム」にあたるものは何かという視点を えて、読ませる。そして、原爆ドームにあたるものは「り」であることを確認したうえで、共通点を考えさせ、2つのものには、平和の としての役 があることを確かめる。さらに、「平和のとりでを築く」の筆者が一 伝えたかったことが、平成16年度の広島市の 学 6年生にも受け がれているかを、「それを見る人 世界の遺産なのだ。」という一文と「平和への誓い」の比べて考え、 させる。

本時の終末にあたっては、 を通して深まった考えを書きまとめ、「平和への誓い」を読むことで深まった筆者の考えにせまらせるようにする。また、自分たちと、広島市の 時の 学 6年生が「平和への誓い」をしていることについて、どのように感 考えたのか発表させ、これから意見文を書く学習へと意 をつなげていく。

8 本時の展開

	学習活動と	指導上の留意点
導入	1 「平和のとりでを築く」で読み取った要旨を振り返る。 2 本時のめあてをたしかめる。	○ 要旨が振り返りやすいように、要旨を示しておく。
	「平和のとりでを築く」で読み確かめた要旨をもとに「広島市 平成16年度 平和への誓い」を読み、平和についての考えを読み比べ、筆者の考えをさらに深めよう。	
終末	3 「広島市 平成16年度 平和への誓い」を読む。	○ 「平和への誓い」の を提示し、時は自分と広島市の学6年生の言葉であることをおさえる。 ○ 原爆ドームは、それを見る人々に戦争の、しい過去を伝え、人々の心の中にとりでを築くための存在であったことを想起させる。 ○ 「平和のとりでを築く」では、原爆ドームを通して平和について読んできたが、「平和へ誓い」では、何がそれにあたるのか考えさせ、それがわかる文や言葉に イドラインを かせながら 読を させる。 ○ 「り」が「原爆ドーム」にあたることに気 させる。 ○ 共通点「どちらも・・・。」という書き出しを え、自分の考えの根拠をはっきり伝えられるようにする。
	4 「平和のとりでを築く」の要旨と「平和への誓い」の平和に対する考え方を読み比べる。 (1) 「平和への誓い」の中で「原爆ドーム」にあたるものを考える。 ・ 「り」 (2) 「原爆ドーム」と「り」の共通点と相違点を考え、す。 ○ 平和を守ろうとする気 ちが起こるもの。 ○ 平和を している。	○ との考えの共通点や相違点を意識して き、発表に生かすようにさせる。
	5 「平和のとりでを築く」で、筆者が一 伝えたかったことが、「平和への誓い」の6年生に受け がれたか考え、筆者の考えを深めていく。 (1) 平和がどんな人たちに平和への思いをもたせるのか。 ・ 日本人、世界中の国の人 ・ 言葉、文化、 教の違う人 (2) 「世界の遺産なのだ」の筆者と 思いをこめた 所を す。 ・ 戦争の さや平和の十とを語り、世界へ伝えていくを続けていくこと。	○ 6年生に受け がれたといえるのか、それがわかる文や言葉に イドラインを させる。 ○ 「平和のとりで築く」で筆者が一 伝えたかった「原爆ドームは、それを見る人の心に 世界の遺産なのだ。」の一文の「それを見る人」と「世界の遺産なのだ。」とつないで考えさせ、筆者の考えを深めさせる。
	6 して深まった考えを書きまとめる。	○ 「平和への誓い」と読み比べることによって深まった筆者の考えという視点で書きまとめさせる。 ○ 自分と広島市の学6年生が 年平和への誓いをしていることをどのように思うかを発表させ、これから自分が平和への考えを深めていくために意見文を書く意 をもたせる。